

令和 6 年度 朝日山地森林生態系保護地域部会の概要報告

1. 日時及び場所

令和 6 年 7 月 10 日（水）13：30～15：30 鶴岡市朝日中央コミュニティセンター

2. 出席者

別紙のとおり

3. 議事概要

（1）審議事項

① 令和 5 年度朝日山地森林生態系保護地域モニタリング調査結果

朝日山地森林生態系保護地域内における人為的影響の把握を目的として、平成 15 年度より継続しているモニタリング調査結果等について、事務局より説明。

② 山形県における令和 5 年度ニホンジカ目撃情報

令和 4 年度は合計 167 個体確認（オス 112、メス 40、幼獣 1、不明 14 個体）
令和 5 年度は合計 230 個体確認（オス 177、メス 23、幼獣 10、不明 20 個体）
であり、増加傾向にあると山形県みどり自然課より説明。

③ 各地のニホンジカ対策事例

全国の森林管理局で行っているニホンジカ対策の取組は、全て高密度時の対策であり、主な取組は①地域との連携によるシカ被害対策の推進、②センサーカメラ等を用いたモニタリングによる生息状況や被害状況等の調査、③捕獲等による被害防止対策の推進であること等を事務局より説明。

委員からは、朝日山地は豪雪地域で、すぐにニホンジカの被害が起こるとは考えていないが、ニホンジカがどれほどの密度になった時にどのような対策を取るかを決めておいた方が良いとの意見があった。

事務局からは、この部会で審議する内容というよりも、環境省も含めた国全体の環境対策になるため、このような意見が出ている、という情報を本庁に伝えながら検討を深めてまいりたい、と回答。

④ 第Ⅵ期の朝日山地の森林生態系保護地域モニタリング調査項目の検討

現在、本調査については第Ⅴ期（令和 6 年～10 年）が始まったところであるが、第Ⅵ期モニタリング調査項目については哺乳類調査に重きを置くことなどについて事務局より説明。

委員からは、モニタリング調査を無くす、あるいは休止にするのではなく、調査項目について今一度検討を行い、それぞれの調査の重みづけ、モニタリング調査の重要性を考えながら、続けるという事の重要性も考えるべきとの意見があった。

事務局からは、モニタリング調査の『重みづけ』については、朝日山地で何を優先的に保全するのかといったことを踏まえ今後検討していきたい、と回答。

（２）報告事項

① 令和５年度朝日山地森林生態系保護地域及び周辺地域における巡視状況

令和５年度巡視活動等（ボランティア巡視、合同パトロール、森林生態系保護地域の看板の保守点検、スノーモービル乗り入れ規制等）について、事務局より報告。

② 森林生態系保護地域内における人工林から天然林への誘導について

山形大学農学部と連携した更新補助作業等の取組状況や、林床植生モニタリング調査の実施状況等について、事務局より報告。

③ 朝日自然塾について

地元自然保護団体、山岳会、自治体及び朝日庄内森林生態系保全センターから構成される朝日自然塾連絡協議会が、地元の小中学生の親子を対象に開催している朝日自然塾の令和５年度の実施状況、令和６年度の実施計画等について、事務局より報告。

④ 関東森林管理局下越森林管理署村上支署の報告事項

新潟県側における朝日山地森林生態系保護地域の令和５年度巡視活動等について、下越森林管理署村上支署より報告。

令和 6 年度 朝日山地森林生態系保護地域部会
出席者名簿

朝日山地森林生態系保護地域部会 委員

(敬称略、五十音順)

氏 名	役 職 等	備 考
いしやま えいいち 石 山 栄 一 さとう みのる (佐藤 実)	山形県 環境エネルギー部 みどり自然課 課長 (みどり自然課 課長補佐)	(代理出席)
えんどう かずひろ 遠 藤 一 博	山形県猟友会 事務局長	欠席
かつら かずひこ 桂 和 彦	山形県内水面漁業協同組合連合会 参事	
きくち しゅんいち 菊池 俊 一	山形大学 農学部 准教授	
くさかり こういち 草 刈 広 一	山形県山岳連盟 自然保護部会 部長	
さとう よしや 佐藤 善哉	山形新聞社 論説委員	
し だ りゅうたろう 志田 龍 太 郎	山形県西村山郡西川町 大井沢区長	欠席
すずき ただし 鈴木 正	山形県溪流釣り協議会 会長	
ながはた よしゆき 永 幡 嘉 之	出羽三山の自然を守る会 理事	
みなかわ おさむ 皆 川 治 ちょうなん ひとし (長 南 均)	山形県 鶴岡市長 (朝日庁舎 産業建設課 主査)	(欠席)
わたなべ もとつぐ 渡 邊 元 嗣	環境省 羽黒自然保護官事務所 自然保護官	